

47都道府県プロフィール
2024年1月～2024年06月

石川県

被災の技能実習生、働き口見つからず 職種変更が壁に

2024/03/04

能登半島地震では石川県内に住む外国人技能実習生も被災した。国は特例措置として別の職場で働くことを認めたが、新たな働き口が見つからないケースも少なくない。高齢化による人手不足が深刻な地方で、実習生は大きな役割を果たしている。専門家は公的機関のきめ細かい支援を求める。「会社が再開するめどが立たない。帰国するしかないのか」「これからどうやって借金を返したらいいか」。外国人を支援するNPO法人「YOU



被災の技能実習生、働き口見つからず 職種変更が壁に - 日本経済新聞

能登地震被災の外国人実習生、特例で別の職場で就労可能に 石川県内に

4 6 0 0 人登録

2024/01/29

能登半島地震で職場が被災するなどして就労できなくなった外国人技能実習生らを救う特例措置として、出入国在留管理庁は、別の職場で働けるよう、1日8時間以内の就労ができる「資格外活動許可」を付与すると明らかにした。対象は、災害救助法が適用される新潟、富山、石川、福井4県の47市町村に住み、技能実習や特定技能などの資格を持つ外国人。



漁船で作業をする外国人技能実習生ら＝1月19日、石川県珠洲市

地震に職を奪われたベトナム人実習生をさらに苦しめる「制度の壁」 働き口探しが難航「特例を認めて」

2024/01/23

能登半島地震で打撃を受けたのは、石川県に住む外国人も例外ではない。職場が被災し、一時的に職を失っている技能実習生たちがいる。受け入れを担う監理団体には「真面目に働く彼らに笑顔を取り戻してあげたい」と、次の職場を探す動きも出ているが、制度の壁が立ちほだかる。



能登の実習生、職場変更45件 特例適用1カ月、周知進まず

2024/02/23

能登半島地震で職場が被災して働けなくなった外国人技能実習生が、別の職場で3カ月間働ける出入国在留管理庁の特例措置「資格外活動許可」について、開始から約1カ月で認められたのは石川県や富山県を中心に計45件にとどまることが25日、同庁への取材で分かった。被害が大きかった石川の6市町だけでも約670人の実習生がおり、外国人支援団体は「一部で周知が進んでいない実態があり、潜在的にはまだ需要があるはずだ」と指摘する。



石川県能登町の寮で日本語を勉強するインドネシア人実習生ら＝14日

外国人技能実習生は地震で仕事を失うのではないかと不安強める

2024/01/24

高齢化が進む能登地方では、働きながら技術を学ぶ外国人の技能実習生が地域産業の中で、大きな役割を果たしてきました。今回の地震で実習生らは、仕事を失うのではないかと不安を強めています。被災した能登地方では、漁業や食品加工業などが盛んですが、高齢化が進む中、地場産業の若い担い手として外国人の技能実習生が大きな役割を果たしてきました。おととしの11月から、石川県七尾市の工場

で食品加工の仕事をしていたベトナム人のグエン・ティ・クイン・チャンさん（21）は、作事中に今回の地震に見舞われました。



【被災地の声】石川県七尾市「日本で仕事続けたいけど…」被災した外国

人技能実習生の不安

2024/01/24

2024年1月1日に発生した、石川県能登半島地震。疲れが出て体調が悪化する人や、避難生活の中で亡くなる人も相次いでいます。そんな大変な状況の中で取材にこたえてくださった被災者の方たちがいます。七尾市で被災した、外国人技能実習生として働くグエン・ティ・クイン・チャンさんの声です。



ベトナムから来て被災…避難所で過ごす技能実習生 工場と寮被災し

「仕事がない 帰るのにも働かないと…」

2024/01/10

被災したのは日本人だけでなく外国人も同じです。石川県能登町の中学校に避難しているベトナムからきた技能実習生取材しました。能登町の中学校で避難しているのは縫製工場で働く、ベトナムからの技能実習生です。

ジャンさん：

「地震が起きた時私たちは1階から飛び降りて日本人に連れられてきた」（Q.一番困っていることは）「仕事がない。お金がない。帰るのにも働かないと」

日本語でのコミュニケーションが十分取れない中、支えとなっているのは同じ工場で働く日本人女性です。



[ベトナムから来て被災…避難所で過ごす技能実習生 工場と寮被災し「仕事がない 帰るのにも働かないと…」 | 石川テレビニュース | 石川テレビ放送 ishikawa-tv.com](https://www.ishikawa-tv.com/news/2024/01/10/01)

「これから何を…国に帰りたい」 石川・珠洲のインドネシア実習生16人 従事する漁業の再開見通せず

2024/01/09

能登半島地震が、地元漁業の担い手となっている外国人技能実習生に影を落とす。石川県珠洲市蛸島町では、底引き網漁などに従事するインドネシア人16人が被災。幸い津波の影響は少なく船は無事だったが、仕事再開は先のまた先。「これから何をしたいか。帰れるなら国に帰りたい」と不安の声がこぼれた。避難所となった珠洲市正院町の正院小学校に、実習生3人が携帯電話の充電をしに来た。避難中のお年寄りたちから「ちゃんと食べてるの?」「早く顔を覚えてもらわなあかんよ」と声を掛けられると、小さく会釈し、生活している蛸島町の寮へ戻った。



被災した家屋の前を歩くインドネシア人技能実習生ら

「復興に欠かせない」技能実習生との関係維持、能登の企業が注力

2024/04/03

能登半島地震で被災した企業が、外国人技能実習生との関係維持に力を入れている。人口流出で人手不足がさらに深刻になる可能性があり、事業再開には実習生の力がより必要になるとみているためだ。一方、実習生頼みから脱却しようという企業もある。 2月下旬に一部の工場を再開した、カニカマの製造販売で知られる「スギヨ」（石川県七尾市）。グループ会社を含め、能登半島で働くベトナム、カンボジア人の実習生ら98人も被災した。多くの実習生が帰国するなか、残る実習生もいた。



スギヨの工場で働くグエン・ティ・トゥイさん
（右）ら実習生＝2024年2月8日午後5時0分、石川県七尾市のスギヨの寮、松田史朗撮影 

能登半島医療支援 多言語対応の医療支援を開始

2024/01/26

世界の医療団は石川県に活動拠点がないことから情報収集と対応の検討を続けていましたが、この度、県内で活動するNPO法人You-Iと連携し、支援を開始することになりました。NPO法人You-Iは、県内の地域社会の国際化、文化及び経済の発展に寄与することを目的として石川県で設立された団体です。石川県には約1万7000人（[令和4年度 石川県](#)）の在留外国人がいます。今回の被災地では、技能実習生など漁業関係者の方が多く、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピンなどの国籍を持つ100名近い方が避難されています。私たちの食を支えているにもかかわらず、外国籍の方には行政の支援が届きにくく、避難所に断られる方も出ています。また、ハラルフードなど災害時には後回しになりがちですが対象者には切迫した課題です。



"災害医療チームを派遣し被災地で治療に従事"
石川県医師会 | NHK | 令和6年能登半島地震



【石川県能登地方地震】がんばろう！被災地域に花開く、支援 ...

外国人実習生、地震でトラウマ 帰国決意、人材流出の懸念一石

川・能登地震

2024/03/25

能登半島地震では来日中の外国人技能実習生も被災した。地震が心身に与えた影響は大きく、トラウマを抱えたまま帰国を決めた実習生もいる。石川県珠洲市の蛸島漁港では、不足する漁船乗組員を実習生に頼っているのが実情で、漁協関係者からは「仕事が成り立たなくなる」と不安の声が聞かれた。 「トラウマが今もまだなくなる」。流ちょうな日本語を話すインドネシア人技能実習生のディアン・アンドリアンさん（29）は、元日に起きた地震に苦しめられている。2022年4月から漁船の乗組員を務めており、来日は2回目だ。



石川県珠洲市で震災後初となる定置網漁を再開し、ブリなどを水揚げする漁師ら＝2024年1月、同市の蛸島漁港

「帰りたい」 能登のインドネシア人漁業実習生 仕事できず余震続く

2024/01/13

能登半島地震で被災したのは、地元の人や帰省していた人たちだけではない。インドネシアから来日し、イカ釣りや底引き網漁に従事するインドネシア人技能実習生たちも被災し、続く余震や見えない先行きに、不安を抱えている石川県珠洲市の蛸島漁港近くに住む20人弱は、地震発生時、2004年に建てられた鉄筋2階建ての寮「パンダワ・ハウス」にいた。日頃船長らに言われているとおり、すぐに裏山に避難して全員無事だった。たき火をして寒さと恐怖に震えながら一夜を明かした。イカ釣り漁船に乗っているリオノ・アズナンさん（26）は「インドネシアでも小さい地震は経験したことがあるが、ここにいると毎日、地震があつて怖い」。インドネシアにいる両親や妻から帰ってきてほしいと言われているといい、「すぐに帰りたい」と話す。



ボランティア団体から届いたばかりのポータブル電源を操作するインドネシア人技能実習生たち。スマートフォンの充電に困っており、「これでインドネシアの家族たちと連絡が取れる」と喜んでいた
=2024年1月12日午後、石川県珠洲市蛸島町、筋野健太撮影 

能登で被災の外国人実習生、立ちはだかる高い壁 「早く仕事したい」のに…

2024/01/24

能登半島地震の発生から22日で3週間。生活再建は見通せず、被災者を取り巻く状況は厳しいが、打撃を受けたのは石川県に住む外国人も例外ではない。職場が被災し、一時的に職を失っている技能実習生たちがいる。受け入れを担う監理団体には「真面目に働く彼らに笑顔を取り戻してあげたい」と、次の職場を探す動きも出ているが、制度の壁が立ちはだかる。 「早く仕事がしたい」。来日して1年余のベトナム人技能実習生グエン・ティ・クインさん（21）が漏らす



被災して研修所で暮らすベトナム人の技能実習生ら。空いた時間で日本語を勉強している＝20日、石川県宝達志水町で

[能登で被災の外国人実習生、立ちはだかる高い壁 「早く仕事したい」のに…：北陸中日新聞Web](#)

孤立する被災外国人、失業も… 多言語での支援不十分 能登半島地震

2024/01/16

能登半島地震で大きな被害を受けた石川県には、技能実習生3500人を含む多くの外国人が住んでおり、母国語での支援情報などへのニーズが高まる。だが道路の寸断が続く中、通訳の派遣は難しく、関係団体は電話やメールなどによる「遠隔支援」を余儀なくされている。日本語に不自由な外国人材への支援は緒に就いたばかりだ。「働く場を失った」「実習生の転籍はできるのか」「これからどうすればいいのか」石川、富山、福井の3県を担当する外国人技能実習機構富山支所（富山市）には連日、監理団体などからの深刻な相談電話が相次いでいる。同支所によると、現制度では「やむを得ない事情」があれば他業種への転籍も認められるが、今回の地震ではまだ国の認定が始まっていない。



異国での震災...孤立する外国人被災者 当たり前の情報が届かない人達に「顔の見える支援」を（2024年2月14日 ...

「津波怖い。でも…」 日本に残る技能実習生たち

能登半島地震

2024/02/03

石川県能登町の小木港近くにある宿舎「ガルーダ・ハウス2」ではインドネシアから来日し、イカ釣り漁船で働く約20人の技能実習生が暮らしている。1月は休漁期間にあたり、実習生たちは休暇中に能登半島地震で被災した。 元日、寮でそれぞれがテレビを見たりゲームをしたりして過ごしている時に揺れが襲った。テレビの速報を見ても何のことか分からず、スマートフォンから流れてくる速報を見てようやく状況がのみ込めたという。津波警報が出て、一度漁港に全員で集まった後に高台へ避難した。



宿舎で過ごすヌルギオノさん（手前）らインドネシアから来た技能実習生＝石川県能登町で
2024年1月28日、宮武祐希撮影

私たちはどうなるの？ 被災地で路頭に迷う外国人実習生たち

2024/01/20

能登半島地震では、地域経済を支える存在でもある多くの外国人技能実習生が被災した。職場再開のめどが立たず、実習生らは母国の家族を思いながら不安な日々を過ごしている。「私の国にはまだ12歳の妹がいて、仕送りが必要なの」。ミャンマーから来日した女性（25）は、困り果てた表情を見せた。元日の地震で被災して、同胞の実習生ら約10人と一緒に石川県七尾市の小学校に避難した



避難先の小学校で朝食をとるミャンマーから来た技能実習生たち＝石川県七尾市で2024年1月11日午前9時38分、国本ようこ撮影

異国での震災…孤立する外国人被災者 当たり前情報が届かない人達に

「顔の見える支援」を

2024/02/14

NPO法人YOU-I 山田 和夫代表理事：「まず水、食べ物、そういったものがない。どこに取りに行けばいいのかという相談が非常に多い」SNSでの問い合わせも含め、1日におよそ30件の相談が寄せられたといいます。

山田さん：「日本人が手に入れられる当たり前の情報が日本語が不十分で働いている方が非常に多くて伝わらない」

「いわゆる外国人の皆さんが孤立しているっていうのは物理的に孤立しているだけでなく、情報の孤立をしているっていうのを感じられました」この団体では、在留外国人のネットワークで孤立する外国人被災者を支援する一方で、個別に物資を届けることを模索。



[異国での震災…孤立する外国人被災者 当たり前情報が届かない人達に「顔の見える支援」を](#) (2024年2月14日掲載) | テレ金NEWS NNN

能登半島地震での在留外国人支援について、そして直近

の日本語教育施策 | 田尻英三

2024/01/24

今回の「未草」の原稿は、能登半島地震災害時での在留外国人支援の在り方について最初に書きました。特に、「やさしい日本語」は支援情報伝達に有効であったかについての田尻の現時点での感想を述べます。田尻は、日本語習得支援は在留外国人支援の大事な要素の一つと考えていますので、この「未草」でも詳しく扱います。日本語教育関係者は、在留外国人の実情についてもっと関心を持つべきだと考えます。



47都道府県プロフィール
2024年07月～2024年12月

石川県

2024年石川県内の沿岸で密漁で19人を検挙…9人がベトナムの技能実習生

金沢海上保安部によりますと2024年に入り4月から8月までの間に県内の沿岸でワカメやサザエなどを密漁した疑いで27件を摘発し、19人を書類送検したということです。書類送検されたのは20代から70代の男で全員が県内在住でした。19人が密漁したのは、合わせてワカメ23.17キログラムサザエ32個、カキ254個でいずれも自分で食べる目的だったということです。またこのうち9人はいずれも県内の企業で技能実習生として働くベトナム国籍の男で、密漁で検挙された外国人の数としては県内で過去最多となっています。このため金沢海上保安部は技能実習生が働く県内企業に密漁に手を染めないよう指導を行っています。

2024/12/18



[2024年石川県内の沿岸で密漁で19人を検挙…9人がベトナムの技能実習生 | 石川テレビニュース | 石川テレビ放送 ishikawa-tv.com](https://www.ishikawa-tv.com/)

ベトナム国籍の男2人を逮捕 架空の人物名義のマイナンバーカード を提示しキャッシュカード受け取った疑い

2024/11/26

石川県加賀市内で、偽造したマイナンバーカードを提示してキャッシュカードの入った配達物を受け取ったとして、ベトナム国籍の男2人が逮捕されました。偽造有印公文書行使の疑いで逮捕されたのは、いずれもベトナム国籍で加賀市の会社員の男（24）と福井市の技能実習生の男（23）の2人です。警察によりますと、2人は、10月12日と24日に24歳の男の自宅でキャッシュカードの配達物を受け取る際に、23歳の男の顔写真が貼られた架空の人物名義のマイナンバーカードを提示した疑いが持たれています。



「能登半島地震の被災地は泥棒がしやすいと思った」ベトナム人5人による広域窃盗事件の捜査が終結 被害総額は約2500万円

2024/11/19

新潟県警などは18日、ベトナム人の男5人による広域連続侵入窃盗事件の捜査を終結したと発表しました。5人は新潟県や長野県など8県で現金などを盗んだ疑いが持たれていて、被害総額は約2500万円にのぼるということです。この中には能登半島地震で被災した住宅にも侵入していて、「泥棒がしやすいと思った」などと話しているということです。



[「能登半島地震の被災地は泥棒がしやすいと思った」ベトナム人5人による広域窃盗事件の捜査が終結 被害総額は約2500万円 | 新潟のニュース・天気 | BSN NEWS | BSN新潟放送 \(1ページ\)](#)

輪島で被災の外国人、料理で交流 ベトナムやタイ出身、笑い声響く 2024/12/22

石川県輪島市で22日、能登半島地震や9月の豪雨で被災した市内在住の外国人の交流会が開かれた。ベトナムやタイなどの出身者15人ほどが集まり、互いに母国料理を振る舞い談笑した。交流会は多文化人材活躍支援センター（佐賀市）が交流を広めるきっかけにしてみらおうと企画。参加者らは母国語で話し合い、笑い声を響かせながら、タイの「トムヤムクン」やベトナムの「バインセオ」といった料理を手際よく完成させ、舌鼓を打った。



石川県輪島市で市内在住の外国人の交流会が開かれ、手作りの母国料理を振る舞う参加者ら＝22日午後

技能実習生・特定技能生交流「白川郷・飛騨高山バス旅行」を実施しました。

2024/12/24

技能実習生や特定技能生、受入企業の方々（約150名）を対象に、日本の文化や歴史を体験する機会として「冬の白川郷・飛騨高山バス旅行」を実施しました。世界遺産に登録されている白川郷「合掌造り集落」や「飛騨高山の古い町並」を散策。風情あふれる街並みを歩きつつ、日本の景色や歴史・文化・食べ物の魅力を体験していただきました。また当日は技能実習生・特定技能生を対象に「フォトコンテスト」も実施。入賞者に賞品を授与させていただきました。ご参加いただきました皆さんありがとうございました。



[技能実習生・特定技能生交流「白川郷・飛騨高山バス旅行」を実施しました。](#) | 北陸ロードサービス事業協同組合

異国の地で震度7…外国人による、外国人のための震災記録

警報におびえ、避難に戸惑った63人の証言集

2024/07/29

能登半島地震で被災した外国人の体験を集めた記録誌「～あの時わたしは～」が完成した。異国の地で激しい揺れに襲われ、鳴り響く津波警報におびえ、戸惑った外国人たち。教訓を後世に伝えようと、石川県七尾市国際交流協会が半年をかけて、12の国と地域の計63人の生々しい声を一冊にまとめた。



完成した記録誌を読む被災の体験記を寄稿した外国語指導助手（ALT）ら＝石川県七尾市内で

[異国の地で震度7…外国人による、外国人のための震災記録 警報におびえ、避難に戸惑った63人の証言集：東京新聞デジタル](#)

地域との共生を目指して：能登半島地震に際して考えたこと

2024/07/05

悶々としつつも日々情報収集とできることの整理を進め、1月11日には、JICA内部での承認も得て緊急支援期から復旧・復興期のJICA支援の方向性案が固まり、JICA北陸センターは具体的な動きの準備が整いました。JICAの支援の方向性を検討するにあたっては、①「JICA組織として」被災地支援に職員等が参加できるようにすること、②地元の団体や自治体と協働し早く「JICAの果たすべき役割」を作ること、③JICA事業の地域リソース復興への中長期コミットメントを打ち出すことの3点が重要なことであると考えました。



能登半島地震：被災地の人々に寄り添う支援を継続中

2024/07/04

被災地の福祉ネットワークや他の支援団体と連携して、さまざまな支援から取り残された外国人被災者のサポートを行っています。孤立しがちな外国人に食料や飲料水、衛生用品、暖房用燃料などを提供しました。今後は行政や現地の支援団体とも連携して、地域の人々との交流を促進する支援を行います。



被災外国人の住居を訪問して話を聞くAAR職員の櫻井佑樹＝七尾市

「介護の仕事教えて」意気込む 尾鷲・長茂会、ミャンマーから

27人介護士に採用

2024/09/21

尾鷲市の社会福祉法人「長茂会」は今夏、ミャンマーからの技能実習生と特定技能実習生合わせて27人を介護士として採用した。これまでも外国人職員を受け入れてきたが、一度の数としては最多となる。長茂会は、尾鷲市と紀北町で特別養護老人ホーム（特養）やデイサービスセンターなど12施設を運営しており、ミャンマーからの実習生を含めて207人（1日現在）が働いている。近年は人口減少の影響で職員募集に人が集まらず、施設利用者に充実した福祉サービスを提供するには、人手が足りない状況に悩まされてきた



世古理事長（後列右から4人目）と記念撮影するミャンマーの実習生たち＝尾鷲市南浦のスパルシ台で

地震と豪雨に見舞われた輪島市の外国人を支援します

2024/09/26

震度7の地震で被災した石川県能登半島に、
今度は豪雨被害が発生したことを受け、一
般社団法人多文化人材活躍支援センター

（佐賀市、代表理事：山路健造）は、輪島
市を中心とした外国人住民への情報と物資
を届ける活動を始めます。26日より、被災
した外国人住民たちのお困りごとを募る専
用フォームを開設し、ニーズ調査を始めま
した。



[地震と豪雨に見舞われた輪島市の外国人を支援します | 一般社団法人多文化人材活躍支援センターのプレスリリース](#)

日本語ボランティアサークル 技能実習生たちとの国際交流

2024/12/13

日本語ボランティアサークル「つなぐみ」は、12月8日（日）MOGUMOGUにおいて、オレオウ・ベトナム事業協同組合がお世話をしているベトナムとインドネシアの技能実習生と交流会を開催しました。交流会では、実習生からベトナムとインドネシアでのお正月の過ごし方について教えてもらうとともに、つなぐみのメンバーが金沢などの観光スポットをお勧めしました。その他、日本語の練習のためパートナーから趣味などを聞き取ってグループ内で他己紹介をしたり、日本、ベトナム、インドネシアのお菓子の試食会を開いたりしました。



能美市国際交流協会 | 誰もとに残さない、対等な関係で築く国際理解

2024/10/10

人口約5万人の石川県能美市は、海や山など自然に恵まれた市です。伝統工芸の九谷焼が有名で、美味しい農産物がたくさんとれるのどかな場所です。ボランティア精神が旺盛な方が多く、住民の人柄が良いというのが自慢です。また、市内には、国立大学法人北陸先端科学技術大学(以下J A I S T)があります。このJ A I S Tで、世界水準の先端科学技術を学ぶために、ベトナムなどのアジア圏を中心に、世界中から優秀な留学生がやってきて生活しています。留学生の家族や、J A I S Tの先生、技能実習生、日本人の配偶者の方などを含めると、1,400人もの外国の方が能美市で生活をしており、県内で一番在住外国人の比率が高いことも特徴です



[能美市国際交流協会 | 誰もとに残さない、対等な関係で築く国際理解 - Spaceship Earth \(スペースシップ・アース\) | SDGs・ESGの取り組み事例から私たちにできる情報をすべての人に提供するメディア](#)

能登半島地震 寄り添って見えたこと、私たちにもできること【国際

NGOの活動】

2024/09/30

地震が発生した1月1日の夜には被災地の情報収集を開始し、支援を続けているのが国際協力NGO「特定非営利活動法人 難民を助ける会（AAR Japan）」です。1月2日に緊急支援チームの第一陣が珠洲市での炊き出しに向けて出発、3日から炊き出し班と物資配布班に分かれて活動を始めました。なぜ、発災直後から支援を始めることができたのでしょうか。それは、「平時から障がい者団体や支援団体の皆さんとネットワークを形成しているから」と、情報収集と物資配布を担当した生田目充（なまためみつる）さんは話します。



和倉温泉の旅館で働く視覚障がいのあるマッサージ師との懇談会（2024年6月20日、AAR Japan【難民を助け

[活動のヒント：能登半島地震 寄り添って見えたこと、私たちにもできること【国際NGOの活動】](#)

外国人労働者へ運転指導、石川 建設分野「復興の一助に」 2024/12/19

石川県七尾市の七尾自動車学校で19日、建設分野の特定技能外国人を対象とした運転講習プログラムを実施するため、外国人支援に当たる企業との提携式が開かれた。日本の運転ルールを学び、能登半島地震の被災地で、外国人労働者が家屋解体・再建などで活躍することが期待される。学校運営会社の森山明能代表取締役（41）は「復興の一助になれば」と話した。



提携式で「アイティップス」の社長(右)と握手する七尾自動車学校の森山明能代表取締役＝19日午前、石川県七尾市